



大幸薬品

2023年12月期 (FY2023) 第3四半期 連結決算報告

2023年11月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

第3四半期 連結決算業績

第3四半期 セグメント別事業概況

通期業績予想の修正



第3四半期 連結決算業績

- 医薬品事業の増収が牽引し、売上高は増収
- 棚卸資産評価損・返品等の影響縮小や、販管費のコスト削減に努めたことから、前年同期比では業績改善

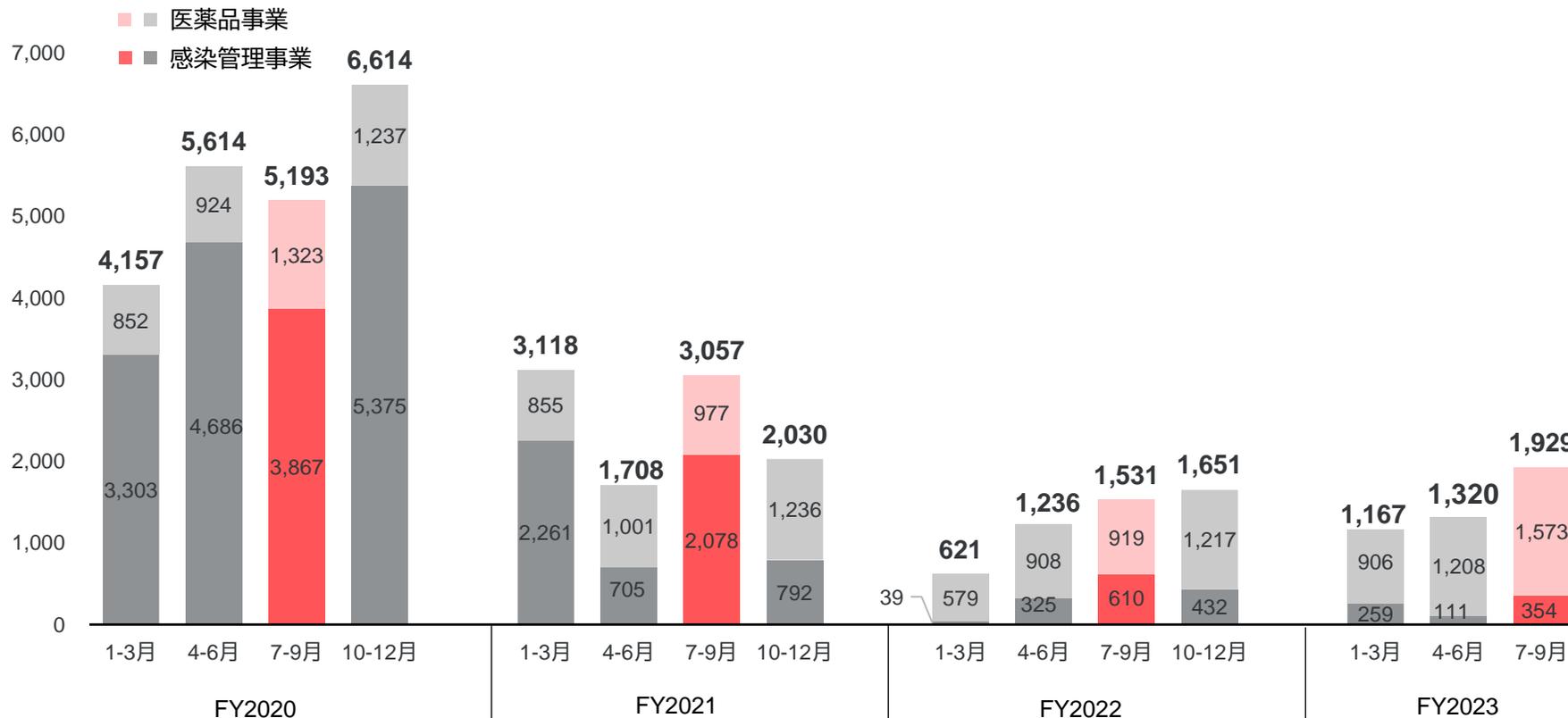
(単位:百万円)

	FY2022		FY2023		増減額	増減率
	第3四半期 累計実績	売上比	第3四半期 累計実績	売上比		
売上高	3,389	-	4,417	-	+1,028	30.3%
売上総利益	476	14.0%	1,791	40.5%	+1,314	276.2%
販売費及び一般管理費	3,226	95.2%	2,235	50.6%	△991	△30.7%
営業利益	△2,750	△81.2%	△444	△10.1%	+2,306	-
経常利益	△2,898	△85.5%	△589	△13.3%	+2,309	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3,182	△93.9%	△562	△12.7%	+2,619	-

連結売上高推移 (四半期)

- 医薬品事業は堅調な需要と供給体制の強化により増収
- 感染管理事業は措置命令の影響もあり、市場需要は低水準で推移

(単位:百万円)



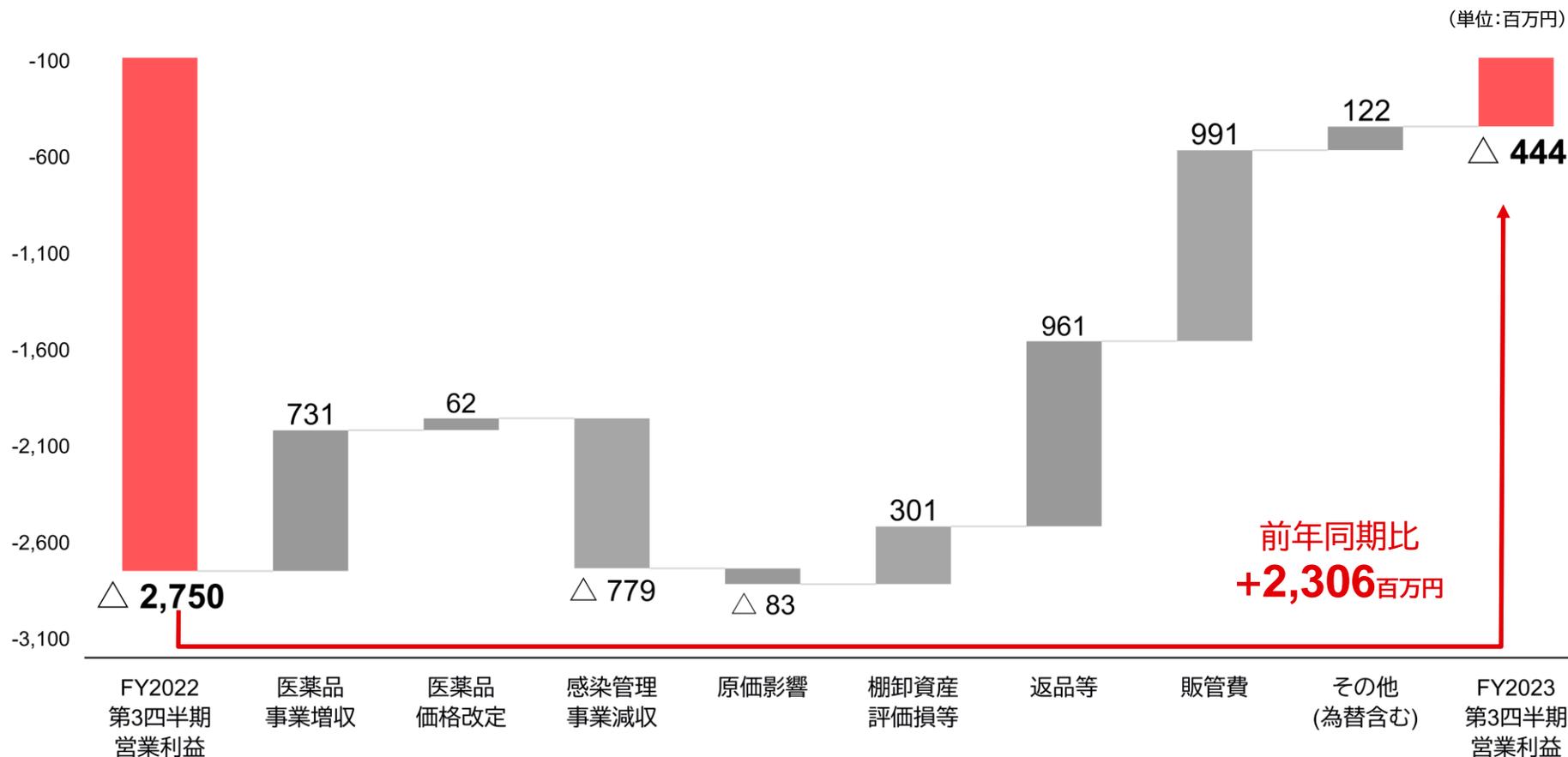
従来基準

新基準※

※「収益認識に関する会計基準」等を適用

営業利益の変動要因

- 医薬品事業の増収影響に加え、感染管理事業の棚卸資産評価損や措置命令に関連する返品等の影響縮小により、前年同期比で大幅に改善
- 販管費は前年同期比で大幅圧縮



販売費及び一般管理費

- 構造改革の推進による固定費削減によって、販売費及びその他経費は大きく減少
- 前期に実施した希望退職等により人件費も減少し、収益体質の改善は進捗

(単位:百万円)

	FY2022		FY2023		増減額	増減率
	第3四半期 累計実績	構成比	第3四半期 累計実績	構成比		
販売費及び一般管理費合計	3,226	-	2,235	-	△991	△30.7%
販売費	955	29.6%	466	20.9%	△489	△51.2%
広告宣伝費	414	12.8%	193	8.6%	△221	△53.4%
販売促進費	200	6.2%	123	5.5%	△76	△38.4%
運送費	340	10.6%	149	6.7%	△190	△56.0%
人件費	1,101	34.1%	872	39.0%	△229	△20.8%
その他経費	1,170	36.3%	897	40.1%	△273	△23.3%
研究開発費	300	9.3%	173	7.8%	△126	△42.1%
支払手数料	426	13.2%	246	11.0%	△179	△42.2%

経常利益・四半期純利益

- 感染管理事業に係る工場の操業停止が継続しており、操業停止関連費用(211百万円)を営業外費用に計上
- 保有株式の売却益(87百万円)や土地の売却益(76百万円)を特別利益に計上

(単位:百万円)

	FY2022 第3四半期 累計実績	FY2023 第3四半期 累計実績	前期比	増減要因等
営業利益	△2,750	△444	+2,306	
営業外収益	141	93	△47	主に為替差益の減少
営業外費用	289	238	△50	主に操業停止関連費用の減少
経常利益	△2,898	△589	+2,309	
特別利益	-	163	+163	
特別損失	282	110	△171	前期:希望退職関連費用:226百万円等 当期:減損損失79百万円等
税金等調整前四半期純利益	△3,180	△537	+2,643	
法人税、法人税等調整額	1	25	+24	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3,182	△562	+2,619	

- 安定的かつ持続的な成長と財務基盤の強化を目的としたエクイティファイナンスを実施
(2023年3月1日発行決議)

(単位:百万円)

	FY2022 期末	FY2023 第3四半期末	前期比	増減要因等
流動資産	7,556	8,869	+1,313	
現金及び預金	3,105	4,776	+1,670	
売上債権	1,798	2,273	+474	
棚卸資産	1,952	1,589	△363	医薬品在庫1,096百万円 感染管理在庫451百万円
固定資産	7,489	6,942	△547	
資産合計	15,046	15,812	+766	
流動負債	2,793	2,778	△15	
固定負債	4,208	3,270	△937	長期借入金の返済等
純資産	8,044	9,763	+1,718	エクイティファイナンスによる増加
負債純資産合計	15,046	15,812	+766	
自己資本比率	53.5%	61.7%	-	



第3四半期 セグメント別事業概況

セグメント別事業概況

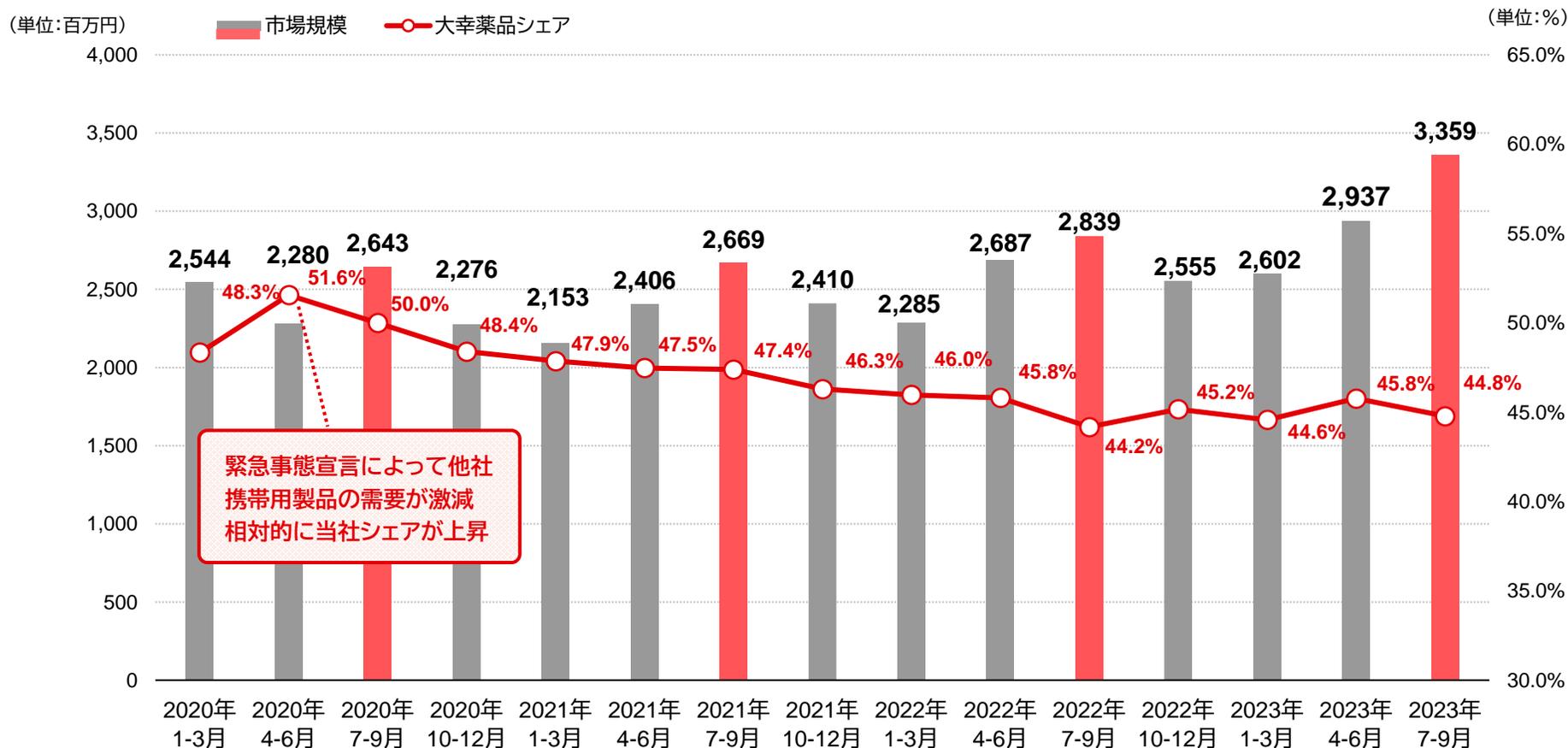
- 医薬品事業 : 国内向け、海外向けともに増収により、セグメント利益は大幅増益
- 感染管理事業 : 売上は減少も、棚卸資産評価損の減少や費用抑制により、損失幅は改善

(単位:百万円)

		FY2022 第3四半期 累計実績	FY2023 第3四半期 累計実績	増減額	増減率
医薬品事業	売上高	2,407	3,688	+1,281	+53.2%
	セグメント損益	△42	955	+997	-
	利益率	△1.8%	24.9%	-	-
感染管理事業	売上高	976	724	△251	△25.8%
	セグメント損益	△1,800	△643	+1,156	-
	利益率	△184.4%	△88.9%	-	-
その他事業	売上高	5	4	△1	△23.7%
	セグメント損益	△14	△17	△3	-
	利益率	△251.8%	△405.6%	-	-

- 国内止瀉薬市場は堅調で、コロナ前の水準を上回って推移
- 当社シェアは供給課題の解消に至らず微減

国内止瀉薬市場



※出所:株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 国内医薬品事業は堅調な需要と他社製品欠品の影響もあり大幅増収
- 正露丸クイックCもパッケージリニューアル(2023年7月)後、好調な推移
- 供給体制の強化に取り組み、早期に一部製品で実施している出荷制限解除を目指す

■ 製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第3四半期 累計実績	第3四半期 累計実績		
国内医薬品事業売上高	1,904	2,459	+555	+29.1%
正露丸	1,104	1,585	+480	+43.5%
セイロガン糖衣A	1,039	1,052	+13	+1.3%
正露丸クイックC	54	168	+114	+209.5%
その他 ※1	50	60	+9	+18.5%
返品・値引・協賛等	△344	△407	△62	-

※1 整腸薬「ラッパ整腸薬BF」、止瀉薬「ピシャット」等

正露丸



セイロガン糖衣A



正露丸クイックC



ピシャット下痢止めOD錠



ラッパ整腸薬BF



- 国内市場との製造スケジュール調整によって遅れていた供給を一部再開
- 香港、中国向けの価格改定(値上げ)の影響もあり、増収

地域別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第3四半期 累計実績	第3四半期 累計実績		
海外医薬品事業売上高	502	1,229	+726	+144.5%
中国	496	649	+152	+30.8%
香港	-	348	+348	-
台湾	-	208	+208	-
その他対象エリア ※1	29	84	+54	+183.0%
返品・値引・協賛等	△23	△61	△38	-

※1 米国、カナダ、タイ、マレーシア、モンゴル

正露丸



セイロガン糖衣A



- 措置命令の影響もあり、市場需要は低水準で推移
- 10月より「クレベリン置き型」の新CM「事実、クレベリン。」篇を放映し、コミュニケーション展開

対象顧客別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第3四半期 累計実績	第3四半期 累計実績		
感染管理事業売上高	976	724	△251	△25.8%
国内一般用	1,377	472	△904	△65.7%
国内業務用	574	334	△239	△41.7%
海外	129	60	△68	△53.0%
返品・値引・協賛等	△1,104	△144	+960	-





通期業績予想の修正

通期業績予想について

- 医薬品事業については、一時的な生産遅延や原料メーカー起因による一部製造ロットの自主回収等の影響により生産量が計画を下回る見込み
- 感染管理事業については、需要期に向けたTVCM等のコミュニケーションを展開するものの、第3四半期までの需要動向を踏まえ、下方修正
- 販管費の抑制に努めるものの、売上総利益の減少や棚卸資産の評価損の計上により、営業利益以下の各段階利益も下方修正

(単位:百万円)

	FY2023 当初予想	FY2023 修正予想	増減額	増減率	FY2022 実績
売上高	7,900	6,400	△1,500	△19.0%	5,040
営業利益	532	△800	△1,332	-	△3,079
経常利益	60	△1,000	△1,060	-	△3,352
当期純利益	50	△950	△1,000	-	△4,895

■ 早期の業績回復に向けて以下の施策に取り組む

医薬品 事業

- 高い需要水準は継続(国内止瀉薬市場は対前年で113.9%)
- シフト生産体制や京都工場の医薬品ラインの立ち上げ等の増産施策に関する整備は着実に進捗しており、安定供給に努める
- ラッパブランドを活かした関連商品(正露丸クイックCやラッパ整腸薬BF等)の拡販強化に取り組む

感染管理 事業

- 秋冬は需要期ではあるものの、現時点での市場需要は低調
- 引き続き広告表示に関しては適切な社内体制を堅持する
- 新CMを中心としたコミュニケーション展開を充実させ、改めて「クレベリン」の理解促進と信頼醸成を目指す

収益体質 の改善

- 製品の収益構造の改善を目指し、製品価格の見直しや操業度向上による原価低減を目指す
- 本社を含めたオフィスの最適化等の検討や固定費削減を継続的に推進



大幸薬品

将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません